

## 小・中学校音楽科における教育内容の分析

—「音楽を形づくっている要素」の下位項目とその階層性—

平野 悠佳(東京成徳大学)

小田切 舞美(東京学芸大学・東京家政大学)

本研究の目的は、2018(平成29)年告示小学校学習指導要領及び中学校学習指導要領における「音楽を形づくっている要素」の下位項目を、世界音楽の音楽分類法をもとに具体化し、その特徴と階層性を明らかにすることである。

音楽科教育において、国内外の音楽文化を継承し、新たな文化を創造していくために必要な資質・能力を育むためには、様々な時代や地域の音楽を扱うことが望ましい。しかし、音楽様式や奏法など、個々の音楽を通して学ばれる知識や技能は、多くの場合特定の音楽ジャンルや楽器に依存するものである。そのような中で、2008(平成20)年告示学習指導要領より「共通事項」の中で明示されるようになった「音楽を形づくっている要素」は、時代や地域、ジャンルの壁を越える音楽科固有の教育内容として捉えられてきた。

しかし、「音楽を形づくっている要素」として示されている「音階」や「拍」等は非常に広い概念であり、実際に特定の音楽を通して学習される5音音階やポリリズムといった具体的な要素の全体像は明らかにされていない。また、拍節的リズムや拍子、リズム型など、「音楽を形づくっている要素」の具体的な要素には階層構造があるが、それらの階層性を整理した論考も管見の限りない。

そこで本研究では、Savage, E.P.らが提唱した世界音楽の音楽分類法を応用し、2018(平成29)年告示小学校および中学校学習指導要領に示されている「音楽を形づくっている要素」の下位項目と関連する文化的特徴の階層性を明らかにすることを試みた。その上で、『ガーランド世界音楽百科事典』等の包括的資料に基づき、文化固有的な音楽概念との対応を示した。